

5 地域活動（キャンパス周辺地域での活動）

5.1 横浜地域活動

職員総括

今年度は、昨年度からの多くの学生が継続して活動したため、多くの1年生を受け入れることができた。さらに、加入した1年生が活発に活動し、充実した1年となった。

以前から活動の内容や運営方法の引継ぎが課題であった。その課題に対し、チーフ・サブチーフを中心に全体ミーティングを実施するとともに、マニュアルを作成して共有できたことを評価したい。

継続して活動を行っている「戸塚原宿ふれあいフリーマーケット」「とつか宿場まつり」では、子ども向けのブースを複数出店している。このイベント準備を計画的に行えた。具体的には、春学期においては、2年生を中心に1年生と合同で班分けし、分担して準備並びに運営を行った。これにより、ミーティング中心になりがちだった活動から、メンバー同士が協働して作業を行う時間を増やすことができ、活動が活性化した。さらに、春学期の後半から秋学期にかけて、1年生中心の班分けを行い、1年生が活発に活動を行える環境を整えた。1年生が中心となったことで、より活動が活発化し、多くの1年生の活動が継続された。実際に活動するメンバーが増えたことにより、横浜市民防災センターでの「防災カフェまつり」が、新規に活動として追加された。この「防災カフェまつり」では、学生自ら横浜市消防局の方々とは連絡を取りあい準備を進められただけでなく、他の学生セクションとも協働したセクション横断型プロジェクトとして実施することができた。次年度においても、より多くの学生で協働して地域貢献活動を行えるようになるとともに、自ら新たな企画に取り組めるように成長することを願っている。

なお、今年度も、戸塚区近隣ならびに横浜市内の多くの皆さまに、多大なるご協力・ご理解のもと、学生に活動の場をいただいたことに感謝したい。

（職員 松本剛）

学生総括

横浜地域活動チーフとしての1年は大変なことがたくさんあった。1年生でこの横浜地域活動に参加し、2年生で早くもチーフになるということでさまざまなことを手探りでやってきた。4月当初のオリエンテーションを精力的に行ったおかげで、今年は自分たちの代の2倍に近い人数の1年生に参加してもらうことができた。人数が多いというのはそれだけでメリットであり、仕事の分担、新しいブースの考案など、以前より余裕をもって各々がやりたいと感じる活動内容に取り組むことができたように思う。できた余裕のなかで今年度は横浜市民防災センター主催の「防災カフェまつり」へのご協力もさせていただき、そのなかで自分たち考案の「防災劇」をやらせていただくことができた。今後も地元の皆さんと一緒に楽しめる活動を行っていききたい。

（学生メンバー 心理学部教育発達学科）

●2017年度「横浜地域活動」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
4/11（火）・4/12（水）・ 4/13（木）	「ボランティアサークル合同オリエンテーション」 ※ボランティアに興味のある新入生、さらに今まで興味を持ったことが無かった新入生に、明治学院大学のさまざまなボランティアサークルを紹介

	(4/11：運営学生2名、参加者83名、4/12：運営学生2名、参加者85名 4/13：運営学生3名、参加者90名)
4/22（土）	「とっとの芽」（3名）
5/20（土）	・「とっとの芽」（1 Day for Others 協働プログラム）（6名） ・戸塚区青少年指導員協議会主催「チャレンジフェスティバル」
5/28（日）	大学祭「戸塚まつり」に参加（戸塚まつり準備会をバックアップ）
6/4（日）	「ふれあいフリーマーケット」（1 Day for Others 協働プログラム）（36名）
6/24（土）	「とっとの芽」（3名）
7/22（土）	・「とっとの芽」（3名） ・「小田急分譲地自治会夏祭り」にボランティア参加
9/16（土）	「とっとの芽」（2名）
10/8（日）	「とつか宿場まつり」（1 Day for Others 協働プログラム）（33名）
10/28（土）	「とっとの芽」（7名）
11/18（土）	「とっとの芽」（4名）
12/9（土）	「とっとの芽」（3名）
12/23（土）	「防災カフェまつり」（40名、職員2名） 横浜市民防災センターで横浜地域活動を中心に白金地域活動、MG パール、 防災士講座受講生がブース運営を実施
1/20（土）	「とっとの芽」（4名）
3/11（日）	「3.11 被災地応援イベント『～あの時と今～』」 横浜市民防災センターで横浜地域活動、「Do for Smile@東日本」プロジェクトの 学生メンバーがワークショップ、パネル展示を実施

◇とっとの芽（戸塚区地域子育て支援拠点）

目 的	・戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」で子どもたちとふれあう ・明学生に「とっとの芽」での活動について知ってもらう
場 所	戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」
活動内容	子どもたちや保護者の方々とふれあい
活動日時 参加人数	1. 2017年 4月22日（土）9：00～12：00、3名 2. 2017年 5月20日（土）9：00～16：00、6名（1 Day for Others 協働プログラム） 3. 2017年 6月24日（土）9：00～12：00、3名 4. 2017年 7月22日（土）9：00～12：00、3名 5. 2017年 9月16日（土）9：00～12：00、2名 6. 2017年10月28日（土）9：00～12：00、7名 7. 2017年11月18日（土）9：00～12：00、4名 8. 2017年12月 9日（土）9：00～12：00、3名 9. 2018年 1月20日（土）9：00～12：00、4名

実施概要

戸塚区には「とっとの芽」という地域の子育て支援拠点がある。そこは、親子のたまり場となっており、子育ての悩みを相談することもできる子育て支援の場である。「とっとの芽」での活動は、掃除をすることから始まり、親子が集まってきたら、広場で子どもたちとふれあったり、保護者とお話をしたりする。お昼前になると、おもちゃの片付けをして、大型絵本の読み聞かせをしたり、手遊びをしたりする。利用者が帰った後には、子どもたちが使用したおもちゃの消毒をする。今年度は「ふたご・みつごの会」や「手話の会」というプログラムにも参加させていただいた。

感想・活動を通して得た学び

施設を利用している保護者から話を聞くことで、子育てをされていて心配なことや大変なことを知ることができた。実際に子どもを育ててみないと気がつかないような、些細な点に不便を感じていることが多いということがわかった。たくさん子どもたちとふれあうことで、学生のうちから子どもとの接し方について学ぶことができてよかった。職員の方々が、保護者や子どもたちと主体的に、親身になって関わっており、子育て支援拠点の必要性を感じ、「とっとの芽」という場所の大切さを知ることができた。

今後に向けて

自分の子どもをもったとしても、子育ての仕方や子どもとの関わり方がわからない人が増えてきているという。明学生や、地域の方々に、子育てに悩んだときや疲れてしまったときに助けを求められる場所があるということを知ってもらいたい。また、学生のうちから子どもと関わることによって、将来、自分が子どもを育てるときに、子どもとのふれあい方がわかるように、より多くの学生に「とっとの芽」の活動に参加してもらいたい。

(学生メンバー 文学部英文学科)

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇ふれあいフリーマーケット

目 的	フリーマーケットに参加した親子に楽しんでもらう
場 所	横浜医療センター公開空地（戸塚区原宿）
活動内容	戸塚原宿商店街のフリーマーケットに家族で来場された方向けのブースを運営
活動日時	2017年6月4日（日）10：00～
参加人数	36名（学生メンバー19名、1Day参加学生17名）

実施概要

横浜市戸塚区原宿の商店街「松栄会」主催の「ふれあいフリーマーケット」にて、子ども向けのゲームのブース並びにスタンプラリーなどのアトラクションの企画や、運営などを行った。そこでは、フリーマーケットに来たすべての来場者の方が気持ちよく時間を過ごすことができるために、自分たちがどうすればいいのか、地域の人々のために何ができるのかを考えながら活動し、交流を深めた。



感想・活動を通して得た学び

活動を通して、自分たちで何かを作りあげることの大変さや、一つのことを作りあげることでの達成感を得ることができた。また、それぞれのアトラクションを作る作業で、多くの人と協力することでさまざまな世代の人に楽しんでもらえる方法や、考え方の違いについて学ぶこともできた。また、集団で活動することの難しさや、同じ目標に向かって行動を起こす際の意見のまとめ方に工夫することの重要性についても学ぶことができたと感じる。

今後に向けて

協同関係を構築した経験やその大切さを学んだことにより培った協調性を、今後のボランティア活動で発揮するとともに、今後の社会生活にも生かせると感じている。また、今回の活動やその過程で手に入れた技術や知識を、他の世代や、自分とは立場の異なる人たちに伝え、多くの方々が私たちと同様により経験ができるよう手助けを行いたい。活動を通して人と人との交流を広げられるよう、本イベントも含め、横浜地域活動セクションを発展させたい。

(学生メンバー 心理学部心理学科)

◇小田急分譲地自治会夏祭り

目 的	地域の活性化
場 所	上倉田町
活動内容	夏祭りに参加し、盆踊りを地域の方と踊る
活動日時	《練習会》2017年7月5日(水)、7月12日(水)、7月19日(水) いずれも19:00～
参加人数	《本番》2017年7月22日(土) 19:00～

実施概要

小田急分譲地自治会夏祭りで、地域の方と盆踊りを一緒に踊った。そのために、地域の方とともに、夏祭り開催日の1か月前から週1回、盆踊りで踊る音頭の振り付けを教わり、練習をした。夏祭り当日は教わった盆踊りを踊り、屋台のお手伝いも行った。そして、夏祭りを華やかにするために、浴衣やハッピを着て踊った。音頭は約五つあり、戸塚音頭といった地域の音頭も地域の方に教わり踊った。

感想・活動を通して得た学び

今回の活動では、特に地域の特性を理解することができた。地域の音頭を踊り、地域の方と関わることで、上倉田町の地域の特徴を理解することができた。地域を理解することで、地域活性化に繋げることができたと考える。地域の方は皆温かく、優しくかった。盆踊りを通して、この地域の方のためにも、地域活性化を目標に活動していこうという気持ちを再確認できた。さまざまなことを学び、自分も楽しみながら活動ができたので嬉しかった。

今後に向けて

お祭りを通して地域をより理解することができたので、今後はそれを生かし、地域活性化に向けて活動内容をまた考えていこうと思う。ただ毎年、例年と同じように盆踊りに参加し、踊るというだけではなく、昨年とは違い、新しいことを理解することができたなどと思えるように活動を行っていきたい。そのためには目標を持って、新しい気持ちで活動に参加していききたい。たくさん学んで、今よりもっ

とよい横浜地域にしたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇とつか宿場まつり

目 的	新総合庁舎の利用を増やす
場 所	戸塚駅周辺
活動内容	子ども向けブースの展開
活動日時	2017年10月8日(日) 8:30~17:00
参加人数	33名(学生メンバー23名、1Day参加学生10名)

実施概要

2015年から開催している「とつか宿場まつり」に参加しヨーヨー、輪投げ、空気砲、クイズラリー、ギネス記録に挑戦するといった子ども向けブースを運営した。輪投げの景品として、バルーンアートを作った。また、クイズラリーでは学生が実際に戸塚を歩き歴史を学んだうえで問題を作成し、新総合庁舎へより多くの人に入ってもらうためにクイズラリーを実施した。



感想・活動を通して得た学び

宿場まつりを成功させるために、準備の段階から学生が意見を出し合って活動したことで密度の濃い活動になった。活動を通してボランティアを成功させるためには個人の力だけでなくそれぞれの連携や協力が必要不可欠であるということを改めて感じることができた。また各班それぞれが準備の段階から自主的にミーティングや活動をしたことにより、より充実したボランティア活動ができた。最初は1Day参加の一般学生とうまく連携を取ることができなかったが、活動していくうちに仲を深めることができ協力して活動することができた。

今後に向けて

今回の活動では連携を取りやすいようにブースごとに各班分かれて計画・準備を行った。それによってスムーズに行動することができた。また、外部の方々との連絡も班制にしたことにより取りやすくなった。しかし班ごとで活動したことにより他の班がどのようなことを計画し準備しているかといったことが見えづらくなっていたということが課題に挙げられた。今後は今回の反省を生かしてミーティングの際に他の班の進行具合や活動内容を話す機会を多く取った方がよいと思った。

(学生メンバー 社会学部社会学科)

◇防災カフェまつり

目 的	子どもたちに楽しく防災を学んでもらう
場 所	横浜市消防局横浜市民防災センター
活動内容	子ども向けブースの出店
活動日時	2017年12月23日（土）11:00～14:00
参加人数	20名（ほか、他セクションからも参加。総勢40名）

実施概要

横浜市消防局や、(株)クレティセゾンの方々の協力のもと、横浜市民防災センターにて実施した。防災カフェまつりは今年度、初の試みの活動であるため、消防局と学生との間で何度も打ち合わせを重ねた。当日は、劇を通して防災を伝える「寸劇」、消防士の方と一緒に「消防士さんと体力測定」、子どもたちにクリスマスツリーのプレゼントをする「クリスマスツリー工作」というブースを出店した。また、景品として災害時にも作れるクッキーを提供した。



感想・活動を通して得た学び

私は、クリスマスツリー工作班の班長を務め、メンバーの役割分担や、他班、スタッフの方との情報共有を行った。皆をまとめる経験があまりなかったため、今回班長になり、前もって計画を立てることの大切さと、他のメンバーに指示を出すことの大変さを学んだ。当日は、子どもたちがツリー作りに熱心に取り組むようを見て、やりがいを感じた。自分自身も防災を学びながら、子どもたちや大人の方々と楽しく交流することができ、よい経験になった。

今後に向けて

今年度、新たに追加した活動であったため、来場者数やどれくらい楽しんでもらえるかなど不明点が多かったが、実施して雰囲気をつかむことができたため、来年度も引き続き防災カフェの祭りに参加しようと思う。しかし、他のブースの活動が把握仕切れなかったため、より定期的に情報共有をするよう心がける。また、防災カフェでは学生が主体となって防災局の方と会議を行うことができたため、来年度はさらに新たな活動に参加し、社会とふれあう場を増やす。

（学生メンバー 国際学部国際学科）